

【 第8回 ユースアジア選手権 】

2018年9月16日～9月26日 開催地:ヨルダン

試合結果報告 9 月 16 日 (日)

JPN	VS	IRI
15	前半	17
13	後半	12
28	合計	29

個人得点

No.	名前	得点	合計
1	石 濱 壘		0
2	佐 藤 陽 太	1	1
4	可 児 大 輝	1	1
6	窪 田 礼 央		0
7	安 平 光 佑		0
8	清 水 裕 翔		0
9	吉 田 守 一	1	1
11	藤 川 翔 大	6	6
12	矢 村 裕 斗		0
14	山 口 直 輝		0
15	石 嶺 秀		0
17	朝 野 翔 一 郎	2	2
18	梶 山 瑞 生	6	6
20	石 田 知 輝	3	3
21	角 陸 輝		0
25	蔦 谷 大 雅	8	8
			28

戦評

第8回アジアユース選手権のオープニングゲームでもある日本—イランの一戦。これまで日本ユースは4回の合宿(大同特殊鋼、トヨタ車体、NTCなど)と、U-22東アジア選手権を経験するなど強化を進めてきた。目標は、来年マケドニアで行われる世界選手権の出場権獲得と初のアジア制覇である。予選グループDは、日本、イラン、カタール、UAEの4チーム。マスメディアからの直前のニュースでは、『グループDは死の組』と発信されるように、どのチームにも予選敗退の可能性のある危険なグループである。

日本ボールでスタート。RB蔦谷が豪快にロングを叩き込み、今大会の初得点をあげる。体格に優れるイランは、闘争心を剥き出しにして攻守を展開。硬さの見られる日本は、攻撃がかみ合わずイランに速攻を許してしまい3連続失点。それでも、石田、藤川のミドルで反撃、10分には同点に追いつく。その後イランの気迫溢れるDFを崩せず、悪い流れが続く。DFでもRWに連取され、6-10と4点のビハインドとなったところで、チームタイムアウトを要求。攻めるポイントを確認しあった日本は息を吹き返す。イランのミス速攻につなげて、蔦谷、藤川、浅野の連打で25分遂に14-14の同点に追いつく。しかし、その後はミスから速攻に走られ、前半は15-17で折り返した。

後半、梶山の連取で17-17の同点に追いつく。サイドから決められるも、藤川の強打、可児の速攻でこの試合初めてのリードを奪う。ここで流れに乗りたい日本だったが、ミスからの逆速攻とRWの個人技で再び逆転を許す。ここから一進一退の攻防が続き、試合は終盤へ。27分日本が同点を狙ったセットプレーで攻めきれず、そこから逆速攻にあって2点差。28分にもミスが出て、25-28と3点のビハインドとなってしまう。石田の身体を張ったシュートで返すも、29分に突破を許して勝負を決められた。最後は梶山、藤川の速攻で連取したものの、アジアユースのオープニングゲームは、28-29の一点差でイランに惜敗した。

一次リーグ突破のためには、負けられない戦いが続く。準備をしっかりと行い、明日のUAEとの戦いに備えたい。

報告記入者 :

吉田耕平